

青年と県政の橋渡しをしたい

学校給食費ゼロにしよう
最低賃金1500円を実現しよう
返済不要の奨学金、返還支援をはじめよう

私が参加する民青同盟はこの3年間、学生への食料支援を行ってきました。福岡でもいろんなところで実施しました。アンケートに寄せられた実態は本当に切実です。

私が聞いてきた学生の声は、「学費が払えないから退学も検討している」「閉店間近のスーパーで割引になった麺やもやしをクレジットの分割払いで買っている」「インスタント味噌汁を食べて3食しのいでいる」「銀行口座にはあと11円しか入っていない」などなど本当に切実な実態ばかりです。

このアンケートをもとに県庁に要請をしたら、4000万円の学生支援の予算が実現しました。声を上げることで実際に政治を動かした。このことは私自身の民主主義への確信が深まる大きな出来事でした。

ただ、ごく一部の学生しか支援の対象にはならない。それではまだまだ足りない。もっと多くの学生を支えようと思ったら、政治をさらに動かさないといけないし、そのために私が青年と福岡県をつなぐ存在になりたいです。

今の青年は自民党による新自由主義的な社会の中で生きてきました。自分のことは自分でどうにかする。政治はなにもしてくれない、選挙に行ってもどうせ変わらないというあきらめの気持ちも持っています。政治の仕事は自助・共助を押し付けることでなく、公助を広げることです。あきらめることに慣れてしまった青年の希望になりたい。

ウラ面もごらんください

証紙

4月9日は県議会議員選挙

暮らしに
困らない福岡を



すなかわ

日本共産党 県議会議員候補
(博多区)

あやね



福岡から実現したい
ジェンダー平等を

今の政治家は男性ばかりです。それは、女性に家事・育児の負担を押し付けているからで、朝8時から夜8時の選挙活動なんて、子育てをしている女性には到底無理な話です。

私は子どもが小さいし夫はフルタイムで働いているし、最初は難しいかなと思いましたが、今回立候補の話を受けることができたのは、子育てを優先して選挙活動をしていいよと、私の置かれている状況をみて臨機応変に対応してくれる、県議会に女性の議員が必要だと本気でジェンダー平等を目指している日本共産党だからです。

命を守る政治を
つくりたい

医療機関で働いていて新型コロナの対応で本当にたいへんな3年間でした。感染爆発と医療ひっ迫がくり返され、自宅療養で急変して亡くなった方も少なくありません。政府も福岡県ももっと予算をつけて対策を強化してほしい。

岸田政権はコロナを5類に引き下げようとしています。感染者を把握せず、PCR検査も医療費も自己負担にする、そんなことになったら、医療崩壊になりかねません。経済的にも打撃です。命を最優先にした県政に変えましょう。

28歳。福岡医療団千代診療所勤務。日本民主青年同盟のメンバーとして社会のしくみを学びながら、学生への食料支援や憲法9条を守る運動、ジェンダー平等の実現にとりくむ。



『大軍拡NO!』『改憲反対』
みんなの先頭に立って声を上げたい

すなかわ
あやね
日本共産党 県議会議員候補
(博多区)

私には小学校1年生の子どもがいます。妊娠しているときに安保法制が強行採決されました。この子の未来は明るいのだろうか、平和に暮らしていけるのだろうか、すごく不安な思いを抱えていました。その中で日本共産党だけが戦前から戦争に反対していると知り、わたしもこの人たちの仲間になりたいと思い入党しました。

憲法9条には「戦争しない」とはっきり書かれていますが、自民党政権は安保法制の強行採決に始まり、「抑止力」といって軍拡を押し進めています。みんなの不安をおおって軍拡をしても軍拡競争に終わりはありません。いつまでたっても不安な思いを抱えたままです。憲法どおりの政治に変えてこそ、わたしたちが安心して暮らせる社会が待っています。

戦争になって命を落とすのは私たちです。軍拡ではなく、対話で解決する、これが政治のやることではないでしょうか。

改憲勢力が国会の3分の2の議席を持っている今だからこそ、戦争反対、憲法守れの声をあげることがとても重要です。わたしたちは微力ですが無力ではありません。